



# 特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合 2012 年度定時総会

日時：2012 年 4 月 25 日（水）13：30～17：00  
会場：東京大学 山上会館 大会議室

## 開会

【挨拶】 13:30～13:40 会長：出口 光一郎（東北大）

【議事】 13:40～14:10

1. 第 1 号議案：定款変更の修正
2. 第 2 号議案：新役員の選任
3. 第 3 号議案：2011 年度事業報告および 2012 年度事業計画案
4. 第 4 号議案：学会賞の創設
5. 第 5 号議案：2011 年度収支決算報告および 2012 年度予算案

【震災克服研究に関する会員学会連携活動報告】 14：20～15：50

1. 全体活動方針：出口 光一郎（東北大）
2. WG 活動方針：田村 義保（統数研）、大場 允晶（日大）、安岡 善文（科学技術振興機構）
3. 会員学会取組み紹介（その 2）
  - （1）システム制御情報学会 松野 文俊（京都大）
  - （2）社会情報学会 櫻井 成一郎（明治学院大）

【特別講演】 16:00～17:00

司会 副会長 安岡 善文（科学技術振興機構）

「放射性物質汚染の把握と健康被害防止のための提言—日本学術会議による事実探索の試み」

春日 文子氏（日本学術会議 副会長/

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部長

次ページに略歴記載）

## 閉会

■懇親会 17:10～18:00 山上会館 食堂（参加費 3,000 円）

（懇親会終了後 2012 年度横幹連合第 1 回理事会を開催します）

## 特別講演講師略歴

春日 文子（かすが ふみこ）

日本学術会議 第22期（2011年10月～）副会長、第二部会員  
国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部長、農学博士、獣医師

1982年東京大学農学部畜産獣医学科卒業、1988年東京大学大学院博士課程修了。1989年、国立予防衛生研究所（現、国立感染症研究所）入所、2002年国立医薬品食品衛生研究所へ異動、同所食品衛生管理部第三室長を経て、2012年4月より現職。

日本学術会議東日本大震災復興支援委員会幹事、同放射能対策分科会副委員長。この他、同国際委員会 G8 及び ICSU 等分科会委員長等。食品安全委員会微生物・ウイルス専門調査会専門委員、緊急時対応専門調査会専門委員を歴任、文部科学省学校給食衛生管理研究協力者会議委員。国際食品微生物規格委員会 (ICMSF) 幹事を務め、FAO/WHO 専門家会合に参加。食品衛生学、特に微生物学的リスク評価手法の研究を行う他、保育所保健衛生や学校給食衛生の指針作りにも関わる。

## 1. 第1号議案 定款変更の修正

文書による臨時総会（2011年10月14日配信）により議決した定款変更に関し、内閣府に申請したところ、第6章 理事会（表決権等）第37条 に対して修正指示があったので、本修正につき承認いただきたい。

### 1. 臨時総会での定款変更決議内容

(1)住所変更、および、(2)総会、理事会での招集及び表決権等における電磁的方法の採用につき定款変更を決議し、内閣府に以下のとおり申請した。

#### (1)住所変更

##### ・変更の内容

新（変更後）	旧（変更前）
<p>第2条</p> <p>本法人は、主たる事務所を東京都文京区公益社団法人計測自動制御学会事務局内に置く。</p> <p>2 本法人は、前項のほか、従たる事務所を大阪府吹田市 公益社団法人日本生物工学会事務局内に置く。</p>	<p>第2条</p> <p>本法人は、主たる事務所を東京都文京区本郷1丁目35番28号303社団法人計測自動制御学会事務局内に置く。</p> <p>2 本法人は、前項のほか、従たる事務所を大阪府吹田市山田丘2丁目1番 大阪大学工学部内 社団法人日本生物工学会事務局内に置く。</p>

##### ・変更の理由

主たる事務所、従たる事務所の住所表記にある学会名称が変更されたため。

#### (2)総会、理事会での招集及び表決権等における電磁的方法の採用

##### ・変更の内容

新（変更後）	旧（現行）
<p>第25条</p> <p>総会は第24条第2項第3号の場合を除き、会長が招集する。</p> <p>2 会長は、第24条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、請求のあった日から1ヵ月以内に臨時総会を招集しなければならない。</p> <p>3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法をもって、少なくとも10日前までに通知しなければならない。</p>	<p>第25条</p> <p>総会は第24条第2項第3号の場合を除き、会長が招集する。</p> <p>2 会長は、第24条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、請求のあった日から1ヵ月以内に臨時総会を招集しなければならない。</p> <p>3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電子メールをもって、少なくとも10日前までに通知しなければならない。</p>
<p>第29条</p> <p>各会員の表決権は、会員種別、会費額等に係わりなくすべて平等なるものとする。</p>	<p>第29条</p> <p>各会員の表決権は、会員種別、会費額等に係わりなくすべて平等なるものとする。</p>

<p>2 やむを得ない理由のため総会に出席できない会員は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法をもって表決し、又は他の会員を代理人として表決を委任することができる。</p>	<p>2 やむを得ない理由のため総会に出席できない会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の会員を代理人として表決を委任することができる。</p>
<p>第34条 理事会は、会長が招集する。</p> <p>2 会長は、第33条第2項第2号及び第3号の規定による請求があったときは、請求のあった日から14日以内に理事会を招集しなければならない。</p> <p>3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法をもって、少なくとも7日前までに通知しなければならない。</p>	<p>第34条 理事会は、会長が招集する。</p> <p>2 会長は、第33条第2項第2号及び第3号の規定による請求があったときは、請求のあった日から14日以内に理事会を招集しなければならない。</p> <p>3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電子メールをもって、少なくとも7日前までに通知しなければならない。</p>
<p>第37条 各理事の表決権は、平等なるものとする。</p> <p>2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法をもって表決、又は他の理事会構成員を代理人として表決を委任することができる。</p>	<p>第37条 各理事の表決権は、平等なるものとする。</p> <p>2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決、又は他の理事会構成員を代理人として表決を委任することができる。</p>

・変更の理由

これまで、総会、理事会の招集に関して、電子メールの利用を明記していたが、①表決に際しても電子的方法を利用可能とする、②電子メールに限定せず Web を介しての意思表示等を含む電磁的方法（この表現は、NPO 法で用いられているもの）に拡大するため。

2. 内閣府指示事項（修正提案事項）

理事会の表決権を他の理事に委任すると委任された理事が表決権を複数持つことになってしまうため、第37条第2項「又は他の理事会構成員を代理人として表決を委任」を削除

新（変更後）	旧（現行）
<p>第37条 各理事の表決権は、平等なるものとする。</p> <p>2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法をもって表決することができる。</p>	<p>第37条 各理事の表決権は、平等なるものとする。</p> <p>2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決、又は他の理事会構成員を代理人として表決を委任することができる。</p>

以上

## 2. 第2号議案:新役員の選任 2012年度横幹連合新役員(案)

役職		#	任期			氏名	所属	所属学会	推薦 母体
			初就任	始	終				
会長	新任(会長として は留任)	1	2003.4	2012.4 (会長: 2011.4)	2014.3 (会長: 2013.3)	出口 光一郎	東北大学	計測自動制御 学会	理事
副会長	留任(副会長 としても 留任)	2	2009.4	2011.4 (副会長: 2011.4)	2013.3 (副会長: 2013.3)	田村 義保	統計数理研究所	日本統計学会	学会
副会長	新任(副会長 としては 留任)	3	2005.4	2012.4 (副会長: 2010.9)	2014.3 (副会長: 2013.3)	安岡 善文	(独)科学技術振興 機構	日本リモート センシング学会	理事
理事	留任	4	2009.4	2011.4	2013.3	青木 和夫	日本大学	日本人間工学会	学会
理事	留任	5	2011.4	2011.4	2013.3	池上 敦子	成蹊大学	日本オペレーションズ・ リサーチ学会	推薦 委
理事	留任	6	2011.4	2011.4	2013.3	板倉 宏昭	香川大学	日本経営システム 学会	学会
理事	留任	7	2011.4	2011.4	2013.3	上野 元治	(財)未来工学 研究所	研究・技術計画 学会	学会
理事	留任	8	2011.4	2011.4	2013.3	大場 允晶	日本大学	日本経営工学会	学会
理事	留任	9	2011.4	2011.4	2013.3	田中 秀幸	東京大学	社会情報学会	理事
理事	留任	10	2011.4	2011.4	2013.3	寺野 隆雄	東京工業大学	計測自動制御学会 日本シミュレーション&ゲーム 学会	理事
理事	留任	11	2009.4	2011.4	2013.3	平井 成興	千葉工業大学	日本ロボット学会	推薦 委
理事	留任	12	2009.4	2011.4	2013.3	船橋 誠壽	横幹連合	計測自動制御 学会	理事
理事	留任	13	2011.4	2011.4	2013.3	松岡 由幸	慶應義塾大学	日本デザイン学会	学会
理事	留任	14	2011.4	2011.4	2013.3	渡辺 美智子	慶應義塾大学	日本統計学会	推薦 委
理事	新任	15	2012.4	2012.4	2014.3	乾 正知	茨城大学	精密工学会	学会
理事	新任	16	2006.4	2012.4	2014.3	長田 洋	東京工業大学	日本MOT学会	学会
理事	新任	17	2012.4	2012.4	2014.3	岸野 文郎	関西学院大学	日本バーチャル リアリティ学会	学会
理事	新任	18	2010.4	2012.4	2014.3	木野 泰伸	筑波大学	プロジェクト マネジメント学会	学会
理事	新任	19	2012.4	2012.4	2014.3	庄司 裕子	中央大学	日本感性工学会	学会
理事	新任	20	2010.4	2012.4	2014.3	玉置 久	神戸大学	システム制御 情報学会	学会
理事	新任	21	2010.4	2012.4	2014.3	本多 敏	慶應義塾大学	計測自動制御 学会	学会
理事	新任	22	2012.4	2012.4	2014.3	矢入 郁子	上智大学	ヒューマンインタ フェース学会	学会
理事	新任	23	2012.4	2012.4	2014.3	六川 修一	東京大学	日本リモート センシング学会	学会
監事	留任	1	2003.4	2011.4	2013.3	木村 英紀	(独)理化学研究所	計測自動制御 学会	推薦 委
監事	新任	2	2007.4	2012.4	2014.3	山崎 憲	日本大学	日本シミュレーション 学会	学会
注:初就任時期は任意団体の時期を含む									
名誉 会長		1		2008.4		吉川 弘之	(独)科学技術振興 機構		

## 2012年度横幹連合新役員候補の略歴

新役員候補	略歴
理事	
乾 正知 (いぬい まさと)	1988年 東京大学大学院 工学研究科 博士課程中退(情報工学専攻) 1988年～ 東京大学 先端科学技術研究センター 助手、工学部 講師、茨城大学 助教授を歴任 2003年～ 茨城大学 工学部知能システム工学科 教授 [専門] 設計支援システム、生産システム [所属学会] 精密工学会
長田 洋 (おさだ ひろし)	1972年 東京大学大学院 工学研究科 修士課程修了(計数工学専攻) 1973年～ 旭化成(株) 特殊樹脂開発部長、(株)旭リサーチセンタ 取締役等歴任 1999年～ 山梨大学 工学部循環システム工学科 教授 2005年～ 東京工業大学大学院 イノベーションマネジメント研究科技術経営専攻 教授 [専門] 技術経営、品質マネジメント [所属学会] 日本MOT学会、日本品質管理学会
岸野 文郎 (きのの ふみお)	1971年 名古屋工業大学大学院 電子工学専攻 修士課程修了 1971年～ 日本電信電話公社 電気通信研究所 1989年～ ATR 通信システム研究所 知能処理研究室長 1996年～ 大阪大学大学院 工学研究科 教授、2002年より同情報科学研究科 教授 2010年～ 関西学院大学 理工学部 教授 [専門] ユーザインタフェース、バーチャルリアリティ、認知科学 [所属学会] 日本バーチャルリアリティ学会、ヒューマンインタフェース学会
庄司 裕子 (しょうじ ひろこ)	1991年 東京大学大学院 工学研究科 修士課程修了(産業機械工学専攻) 1991年～ 新日本製鐵(株) 技術開発本部 研究員 1996年～ 川村学園 女子大学 教育学部 専任講師、助教授を歴任 2002年 東京大学大学院 工学研究科 博士課程修了(先端学際工学専攻) 2004年～ 中央大学 理工学部 助教授、准教授を経て、2011年より教授 [専門] 知能情報学、感性工学、ヒューマンコンピュータインタラクション [所属学会] 日本感性工学会
矢入 郁子 (やいり いくこ)	1999年 東京大学大学院 工学研究科 博士課程修了(機械工学専攻) 1997年～ 日本学術振興会 特別研究員 1999年～ 郵政省 通信総合研究所(現在、情報通信研究機構) 研究官、主任研究員を歴任 2008年～ 上智大学 理工学部情報理工学科 准教授 [専門] 情報・メディア・コミュニケーション学 [所属学会] ヒューマンインタフェース学会
六川 修一 (ろくがわ しゅういち)	1983年 東京大学大学院 工学研究科 博士課程修了 1983年～ 日本アイ・ビー・エム(株) サイエンスインスティテュート 副主任研究員 1985年～ 東京大学 任官、工学部 助教授、大学院工学研究科 教授を経て、 大学院人工物工学研究センター 教授 [専門] リモートセンシング全般、資源探査、技術戦略 [所属学会] 日本リモートセンシング学会
監事	
山崎 憲 (やまざき けん)	1972年 日本大学大学院 生産工学部 修士課程修了 1972年～ 日本大学 生産工学部 副手を経て生産工学部電気電子工学科 教授 (1989年～1992年英国 University of Southampton 客員研究員) [専門] 電気電子工学、とくに音場の可視化とシミュレーション他 [所属学会] 日本シミュレーション学会

[所属学会]:所属する主な学会

### 3. 第3号議案:2011(平成23)年度事業報告および2012(平成24)年度事業計画案

#### 3-1. 事業報告および事業計画案

(A) 2011(平成23)年度事業報告

[1] 2011(平成23)年度の概況

2011年3月11日に発生した未曾有の大震災によって、過度に細分化してしまった伝統的な科学技術の問題点が露呈し、科学技術のあり方として、全体を俯瞰した問題解決の重要性が社会に広く認識される大きな変革の年となった。横幹連合として、これに応えるべく、産業界とも連携していち早く緊急シンポジウムを開催し、強靱な社会の構築に向かっての会員学会の連携を取り結び、新たな展開の途を形成した。これは、第4期科学技術基本計画に対応して2010年に開始した課題解決活動の実践的な展開と位置づけられ、次年度においても、一層の注力を必要とする活動である。

学会としての基盤的な活動については、第4回横幹連合コンファレンスを北陸先端科学技術大学院大学を中心に石川県能美市で開催し、約200名の参加者が、震災克服への取組み他今後の横幹科学技術の展開について昼夜を徹して議論し、相互認識を深めた。また、調査研究会については4つのグループが横幹知の蓄積に努力し、さらに、2010年度から発足した課題解決活動に係る3つのWGが新たな展開に向かっての準備を行った。横幹技術協議会とは、技術フォーラムの開催に加えて、協議会に新たに設置された実行委員会を介して、震災対応のレジリエント・エコノミー他を具体的なテーマとして、産業界との連携施策の検討を深めた。会誌、ホームページを通じて幅広く社会とのコミュニケーションに努めた。とくに、本年度は、英文ホームページを公開し、国際的な発信を開始した。また、意思決定的の確化、迅速化を意図して、総会および理事会の表決等への電磁的方法の導入等の定款変更を行った。

会員の異動は、日本MOT学会、日本生体医工学会が新たに入会し、品質工学会が退会した。これにより、本日現在の会員学会数は40学会である。

財政面では、震災克服研究他で外部資金の獲得に重点的な努力をしたが実現に至らず、これまでの蓄積を減耗する大変に厳しい状況に入っている。持続可能な財政に向かっての体制構築が次年度の重要課題である。

2011(平成23)年度の主な活動は以下の通りである。

- (1) 東日本大震災に対応した諸活動
- (2) 第4回横幹連合コンファレンスの開催(11月)
- (3) 第4回横幹連合総合シンポジウムの準備(6月～)
- (4) SICE2011での企画セッション「TraFST-SICE Joint OS: Social simulation as Transdisciplinary research」開催(9月)
- (5) 調査研究会活動の開発と推進
  - ①人工社会(2009/09-2011/08)
  - ②経営高度化に関わる知の統合(2010/01-2011/12)
  - ③システム工学とナレッジマネジメントの融合(2010/04-2012/03)
  - ④横断型人材育成推進(2010/09-2012/03)
  - ⑤学会連携による課題解決活動(農工商医連携、持続性社会、経営高度化)の継続推進
- (6) 横幹技術協議会との連携活動
  - ①横幹技術フォーラムの開催(第31回～第33回)
  - ②横幹技術協議会実行委員会との連携
- (7) 横幹連合ニュースレターNo.25～No.28の発行
- (8) 英文ホームページの公開、パンフレット改訂
- (9) 会誌「横幹」の刊行 Vol.5 No.1(4月)、Vol.5 No.2(10月)

[2] 東日本大震災に対応した諸活動

- ・横幹連合緊急シンポジウム「強靱な社会インフラの再構築に向けて科学技術は何をなすべきか」開催(4月25日・東京大学 山上会館)
  - ①会員学会の取組み意向に関するアンケートの実施
  - ②会員学会、JST、産業競争力懇談会からの課題提起と今後の取組みに関する意見交換

③理事会声明「震災の克服と強靱な社会の再構築に向けて」発表(5月2日)

・震災対応の課題解決活動の組織化

①理事会の下に「研究統括委員会(委員長:出口光一郎会長)」を設置し、3つのWG(生活における社会の強靱性の強化WG、経営の高度化と強靱性の強化WG、環境保全とエネルギー供給における強靱性の強化WG)を構成した。これらは、2010年度に発足した学会連携による課題解決活動の発展型と位置づけられる。

②会員学会の震災への取組み状況についてアンケート調査等を実施し、横幹連合ホームページにこれを掲載した。

③会員学会に震災克服研究の連携を呼びかけ、16学会から参加の意向表明と延べ62名の委員登録を得た。キックオフ会合を開催(3月26日、八重洲ダイビル)。

[3] 第4回横幹連合コンファレンスの開催

・日程:2011年11月28日(月)~29日(火)

・場所:石川ハイテク交流センター・北陸先端科学技術大学院大学(石川県能美市)

・メインテーマ:21世紀のイノベーション創出に向けた知の統合と知の創造

・共催:横幹技術協議会、協賛:北陸先端科学技術大学院大学

・プログラム

①特別講演(株)加賀屋会長 小田禎彦氏

②特別企画セッション

「震災からの復興に向けた横断型科学技術」「横幹科学技術としてのシステム工学とナレッジマネジメントの融合」

③企画セッション(32セッション)

経営の高度化(8セッション)、震災対応・社会インフラシステム・社会システム(4セッション)、サービスイノベーションと数理・数学(4セッション)、横断型人材育成(4セッション)、デザイン(4セッション)、システム・課題解決型(8セッション)、これらの他に一般2セッション開催

・実行委員長 小坂満隆(北陸先端科学技術大学院大学)

・登録 180名、特別参加 3社

[4] 第4回横幹連合総合シンポジウムの準備

・日程:2012年11月1日(木)~2日(金)

・場所:日本大学生産工学部津田沼キャンパス(千葉県習志野市)

・メインテーマ:横幹技術と日本再生

・実行委員長:山崎憲(日本大学)

[5] 横幹技術フォーラムの開催

横幹技術協議会と連携して、横幹技術フォーラムを3回開催した。

・第31回 企業における事業計画(BCP)の必要性(9月27日、文京シビックセンター スカイホール)

・第32回 情報共有による社会インフラの強靱化~システム技術の新たな挑戦課題~(12月9日、文京シビックセンター スカイホール)

・第33回 強いぞ!日本~社会情報学の視点から東日本大震災からの復旧・復興を考える~(1月31日、文京シビックセンター スカイホール)

これらの他に、産学連携活動として、協議会を介して産業競争力懇談会レジリエント・エコノミーワークショップに出席し、震災における産業界の関心事を調べた。



(B) 2012(平成24)年度事業計画案

[1] 2012(平成24)年度の方針

大震災からの復興・再生、グリーンイノベーションとライフイノベーションの推進等、科学技術に対して課題解決としての取組みが強く求められており、横幹連合はこれまでの理念の主張から実践へと大きく踏み込んで、その重要性の立証と一層の深耕をはかって、社会の期待に応えてゆかなければならない段階にある。

この状況認識の下に、会員学会の一層の連携を取り結び、さらに、関連機関とも連絡を取り合って、震災克服に係わる緊急課題およびイノベーションに向かったの継続課題に取り組んで、社会への貢献と学術的深化を目指してゆく。具体的には、以下の事業を推進する。

(1) 調査研究事業

- ①震災克服に関する会員学会の取組みを連携し、横幹連合としての新たな取組み課題を設定してこれを調査研究活動に展開する。
- ②多分野の交流と社会への発信を目指して、第4回横幹連合総合シンポジウムを開催する。
- ③学術・国際委員会を中心に、緊急課題・継続課題に対して、会員学会が連携した活動を推進し、横幹連合の掲げる理念の具体的な社会への展開と深化に努める。これらの具体的な推進は、調査研究会やプロジェクト活動の形で行う。
- ④産学連携委員会を中心に産業界との連携を深めて、課題発掘と横幹技術の実践的な展開に努める

(2) 普及啓蒙事業：横幹科学技術を様々な角度から掘り下げ、また、最先端の動向を報じる会誌「横幹」の発行、横幹技術フォーラムを開催し、学界・産業界からの理解の獲得に努力する。

(3) 広報事業：ホームページ、パンフレットを通じて、横幹科学技術の解説、イベント紹介、会員学会の活動紹介を行い、横幹連合活動の社会への浸透をはかる。

(4) その他

- ①横断型基幹科学技術に関する研究、実践活動の一層の活性化を企図して、表彰制度を新たに設ける。
- ②厳しい財務状況を打開する施策を立案し、持続可能な事業態勢への転換を目指す。また、業務遂行状況を点検し、体質強化・運営効率化に努める。

[2] 2012(平成24)年度事業計画 (次ページに記載)

## 2012(平成24)年度横幹連合事業計画

事業名	事業内容	実施 予定時期	受益対象者の 範囲及び 予定人数
調査研究 事業(1)	<b>&lt;震災克服に向けた学会連携活動&gt;</b> 会員学会が取組んできている震災克服研究を取り結び、連携によって創出すべき新たな価値を明らかにし、これに向かっての活動を展開する。	4月～ 次年3月	会員学会を中心とした学 および産官
調査研究 事業(2)	<b>&lt;第4回横幹連合総合シンポジウム&gt;</b> これまでの、コンファレンス、総合シンポジウムの成果をさらに発展させ、緊急課題を含む社会的・産業的問題への横幹的アプローチについて交流し、議論を深め、社会への発信にも努める。横幹連合設立10周年を迎える2013年度のコンファレンスの準備会合との位置づけでもある。	11月 1日～2日	学界・産業界 から広く参加 を募る (150名)
調査研究 事業(3)	<b>&lt;学術・国際委員会&gt;</b> 震災克服研究、課題解決活動等の横幹連合の新たな調査研究活動の展開を支援し、国家プロジェクト、産業プロジェクト等の受託の要件作りを行うとともに、これらの基盤となるシステム科学技術等の横幹科学技術の深化に関する方向づけを行う。	4月～ 次年3月	会員学会を中心とした 学界
調査研究 事業(4)	<b>&lt;調査研究会&gt;</b> 横幹的アプローチを必要とする社会的な課題や産業界の課題を取り上げ、複数分野の専門家によるチームを結成し、調査研究を行い、成果は報告書・フォーラム等で一般に公表する。	4月～ 次年3月	会員学会を中心とした 学界
調査研究 事業(5)	<b>&lt;社会プロジェクト活動&gt;</b> 社会的課題に関する国家プロジェクト等を受託し、横幹科学技術による課題解決等の貢献を通じてその有用性を立証するとともに、今後、探究すべき横幹科学技術課題を明らかにする。課題によっては、産業界とも協働して取組む。	4月～ 次年3月	官・学・産
調査研究 事業(6)	<b>&lt;産業プロジェクト活動&gt;</b> 産業界との対話から「横幹的アプローチを必要とする実問題」を抽出し、多分野の専門家からなるチームを編成して解決にあたると同時に、今後、探究すべき横幹科学技術課題の抽出に資する。	4月～ 次年3月	産・学
調査研究 事業(7)	<b>&lt;関連研究機関との連携&gt;</b> 継続的に統数研・産総研と連携して、横幹的課題への取組みを深耕、公開会合や出版に結びつける。	4月～ 次年3月	学界・一般者
普及啓蒙 事業(1)	<b>&lt;会誌「横幹」の発行&gt;</b> 横幹科学技術を様々な角度から掘下げ、多分野からの理解を深めるため、電子媒体を併用した会誌を刊行する。	4月 10月	一般者
普及啓蒙 事業(2)	<b>&lt;横幹技術フォーラムの開催&gt;</b> 主に産業界を対象に、横幹科学技術の先端研究成果を第一線で活躍する研究者が解説する。また、産学の対話による課題発掘の場としても活用する。	隔月	産業界の 中核技術者・ 学界
広報事業 (1)	<b>&lt;ホームページ&gt;</b> ホームページを管理運営し、横幹科学技術の解説、イベントの案内、技術討論、会員学会との交流などを行う。英文ホームページの充実をはかる。	4月～ 次年3月	一般者
広報事業 (2)	<b>&lt;パンフレット・ニュースレター等による広報&gt;</b> 横幹連合の活動の紹介、横幹連合会員学会の活動の紹介、各種イベントの周知・広報等を行う。さらに、これまでの蓄積を素材とする出版についても検討する。	4月～ 次年3月	一般者
その他(1)	<b>&lt;事業活動の活性化&gt;</b> 横幹科学技術に関する研究、実践活動の一層の活性化を企図して表彰制度を新たに設ける。	4月～ 次年3月	会員学会を中心とした学・産
その他(2)	<b>&lt;事業運営の体質強化・効率化&gt;</b> 財務状況の抜本的な改善策を立案し、持続可能な事業体制への転換を目指す。業務遂行の状況を点検し、体質強化・効率化に努める。	4月～ 次年3月	横幹連合 支援者

### 3-2 常置委員会の報告及び計画

#### 3-2-1 企画・事業委員会

##### (A) 2011年度の事業報告

委員長(副会長)	田村 義保	(統計数理研究所、日本統計学会・応用統計学会)
副委員長(理事)	山崎 憲	(日本大学、日本シミュレーション学会)
委員(理事)	大場 允晶	(日本大学、日本経営工学会)
委員(理事)	小坂 満隆	(北陸先端科学技術大学院大学、システム情報制御学会)
委員(理事)	平井 成興	(千葉工業大学、日本ロボット学会)
委員(理事)	船橋 誠壽	(横幹連合、計測自動制御学会)
委員(理事)	本多 敏	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
委員(理事)	渡辺 美智子	(東洋大学、応用統計学会)
委員	稲見 昌彦	(慶應義塾大学、日本バーチャルリアリティ学会)
委員	井上 光太郎	(慶應義塾大学、行動経済学会)
委員	遠藤 薫	(学習院大学、日本社会情報学会)
委員	帯川 利之	(東京大学、精密工学会)
委員	木村 忠正	(電気通信大学、日本信頼性学会)
委員	神徳 敏雄	(産業総合研究所、計測自動制御学会)
委員	庄司 裕子	(中央大学、感性工学会)
委員	土谷 隆	(政策科学大学院大学、応用数理学会)
委員	原 辰次	(東京大学、計測自動制御学会)
委員	山本 栄	(東京理科大学、日本人間工学会)
委員	山本 修一郎	(名古屋大学、プロジェクトマネジメント学会)
委員	村松 健児	(東海大学、日本品質管理学会)

企画・事業委員会の主課題は、(1)所掌業務:シンポジウム、コンファレンス、横幹連合・産総研・統数研の連携など、(2)今後とりあげるべき課題の明確化と長期方針の立案である。これらのために、6月、7月、9月、1月、3月に会議を開催し、以下のように取り組んだ。

##### 1. 第4回横幹連合コンファレンスの開催

2011年11月28日、29日に小坂理事を中心に石川ハイテク交流センター、北陸先端科学技術大学院大学を会場にして開催された。参加者数は195名であった。231,037円の黒字となったが、第5回横幹連合コンファレンスの経費等として引き継ぐ予定。

##### 2. 第4回横幹連合総合シンポジウムの企画・立案

2012年11月1日、2日に日本大学津田沼キャンパスで山崎理事、大場理事を中心に行うことにした。総合テーマは「横幹技術と日本再生」とし、12のセッションテーマを計画した。

##### 3. 第5回横幹コンファレンスの企画・立案

2013年に香川県で板倉理事を中心に開催することにした。横幹連合10周年の記念大会とすることにした。

##### 4. 文理融合について

文理融合を新たな課題とすることにした。政策立案、立法化等の文系の分野とされている業務で理系の知識・方法がどのように活用されているかを中心にシンポジウムなどを開催することにした。上記のシンポジウム時の一つのセッションとすることにした。

##### (B) 2012年度の事業計画

引き続き、シンポジウム、コンファレンス開催に関することを所掌する。また、文理融合についても引き続き取り組む。

1. 第4回横幹連合総合シンポジウムの開催  
シンポジウム開催に必要な諸事項への協力を行う。
2. 第5回横幹連合コンファレンスの準備  
コンファレンス開催に必要な諸事項の準備を行う。
3. 文理融合  
引き続き文理融合についての調査を行い、融合を促進させる方策について検討する。

### 3-2-2 総務・会員委員会

#### (A) 2011年度の事業報告

委員長(理事)	本多 敏	(慶応大学、計測自動制御学会)
副委員長(理事)	寺野 隆雄	(東京工業大学、計測自動制御学会)
幹事(理事)	船橋 誠籌	(横幹連合、計測自動制御学会)
委員(理事)	上野 元治	((財)未来工学研究所、研究・技術計画学会)
委員(理事)	佐藤 吉信	(東京海洋大学、日本信頼性学会)

1. 臨時総会による定款の改訂  
事務所の住所変更(所在地である計測自動制御学会、日本生物工学会が社団法人から公益社団法人に変更)と、総会、理事会での招集および評決権等における電磁的方法の採用のための定款の改訂を提案し、臨時総会での承認を受け、内閣府に変更申請をした。
2. 横幹賞規定案の策定  
横断型基幹科学技術に関するすぐれた研究、実践などの活動ならびに横幹連合への貢献を表彰することにより、一層の活性化を奨励するために、木村元会長からの寄付金「横幹賞基金(仮称)」を原資とする横幹賞の設立を提案した。来年度からの運用を開始する。
3. 会員学会の増強  
理事に、横幹連合会員学会以外の所属学会とアプローチのキーパーソンの紹介を含めアンケート調査を行った。それらも含め、正会員学会への勧誘を行った。

#### (B) 2012年度の事業計画

1. 予算健全化施策の立案・推進  
予算健全化のために、会員学会の増強を含め具体的な施策立案と推進に注力する。

### 3-2-3 学術・国際委員会

#### (A) 2011年度の事業報告

委員長(副会長)	安岡 善文	(情報・システム研究機構、日本リモートセンシング学会)
副委員長(理事)	板倉 宏昭	(香川大学、日本経営システム学会)
委員(理事)	小坂 満隆	(北陸先端科学技術大学院大学、システム制御情報学会)
委員(理事)	寺野 隆雄	(東京工業大学、計測自動制御学会)
委員(理事)	渡辺 美智子	(東洋大学、日本統計学会)
委員	池田 雅夫	(大阪大学、計測自動制御学会)
委員	遠藤 薫	(学習院大学、日本社会情報学会)
委員	岸本 一男	(筑波大学大学院、応用数理学会)
委員	倉橋 節也	(筑波大学、計測自動制御学会)
委員	櫻井 茂明	(東芝ソリューション(株)、日本知能情報ファジィ学会)
委員	高橋 進	(東海大学/中央大学、日本経営システム学会)
委員	高橋 大志	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
委員	内藤 耕	(産業技術総合研究所)

委員	原 辰次	(東京大学、計測自動制御学会)
委員	松井 正之	(神奈川大学、日本経営工学会)

第4期科学技術基本計画に対応した学会連携による課題解決活動の推進を学術・国際委員会で具体的に推進した。所掌業務として、調査研究会の進捗レビューを行った。

#### 1. 学会連携による課題解決活動の組織化と推進

##### (1)WGの運営

WG1：農商工医連携 主査：板倉宏昭(香川大・日本経営システム学会)

WG2：持続性社会評価 主査：増井利彦(国立環境研)

WG3：経営高度化 主査：森雅俊(千葉工大・日本経営工学会)

2011年度は、それぞれのWGで、活動計画を策定し、活動を開始した。

##### (2)科学技術振興機構社会技術研究開発センター(JST/RISTEX)サービス科学事業の受託

2010年度に応募し、受託した JST/RISTEX 事業「地方都市活性化のための社会シミュレーション企画調査」(研究代表 寺野隆雄、期間 2010年10月-3月、人工社会調査研究会を母体とした研究チームで実施)を本プロジェクトに移行すべく 2011年度課題として応募した。残念ながら本プロジェクトとしての採択には至らなかった。

#### 2. 調査研究会の進捗レビューと新規提案調査研究会の審議

進行中の4調査研究会(人工社会、経営高度化に関わる知の統合、システム工学とナレッジマネジメント融合、横断型人材育成推進)に対して、レビューを行った。なお、4調査研究会は2011年度で全てが終了するため、新たに調査研究会を開始する(前年度からの継続を含む)予定である。

#### 3. 委員会の開催状況

第1回学術・国際委員会 2012年1月13日(金)14時-17時、文京シビックセンター

#### (B) 2012年度の事業計画

2010年度にスタートした学会連携活動との調整・整合化を図ってゆく。また、新たな調査研究会を立ち上げ、会員学会の知の結集に向けた活動を継続する。特に、東に日本大震災やタイでの大洪水を受けて、緊急事態に対応した都市や地域システムの在り方について、学会連携活動の調整を図る。

### 3-2-4 産学連携委員会

#### (A) 2011年度の事業報告

委員長(理事)	平井 成興	(千葉工業大学、日本ロボット学会)
副委員長(理事)	大場 允晶	(日本大学、日本経営工学会)
委員(理事)	上野 元治	(財団法人未来工学研究所、研究・技術計画学会)
委員(理事)	後藤 彰	(㈱荏原製作所、可視化情報学会)
委員(理事)	仲谷 善雄	(立命館大学、ヒューマンインタフェース学会)
委員(理事)	船橋 誠壽	(横幹連合、計測自動制御学会)
委員(理事)	渡辺 美智子	(東洋大学、日本統計学会)
委員	飯島 俊文	(Q&T マネジメント研究所、日本MOT学会)
委員	井上 雄一郎	(横幹連合、計測自動制御学会)
委員	尾形 勅	(パナソニック電工ネットソリューション(株))
委員	加藤 俊一	(中央大学、日本感性工学会)
委員	加藤 英明	(名古屋大学、行動経済学会)
委員	酒井 一博	((財)労働科学研究所、日本人間工学会)
委員	櫻井 成一朗	(明治学院大学、日本社会情報学会)
委員	榎木 哲夫	(京都大学、ヒューマンインタフェース学会)
委員	谷川 民生	((独)産業技術総合研究所、ロボット学会)

委員	椿 茂実	(株式会社 クエスト、経営情報学会)
委員	苗村 健	(東京大学、日本バーチャルリアリティ学会)
委員	中野 一夫	(株式会社 構造計画研究所、スケジューリング学会)
委員	広田 光一	(東京大学、日本バーチャルリアリティ学会)
委員	二上 範之	(シャープ(株)、システム制御情報学会)
委員	本間 弘一	((株)日立製作所、計測自動制御学会)

知の統合による産学連携の実現を目指し、具体的なトピックとその実装方法について議論を行う。これを行う場として、横幹技術協議会との連携による横幹フォーラムを企画・実行する。

### 1. 委員会開催

2011年度は下記を開催した。

- 第1回 5月12日(木)13-15時 日本大学経済学部7号館  
議題:横幹技術フォーラムの検討、他
- 第2回 7月22日(金)15-17時 日本大学経済学部7号館  
議題:横幹技術フォーラムの検討、他
- 第3回 9月22日(木)15-17時 日本大学経済学部3号館  
議題:横幹技術フォーラムの検討、他
- 第4回 11月17日(木)15-17時 日本大学経済学部7号館  
議題:横幹技術フォーラムの検討、他
- 第5回 1月19日(木)15-17時 日本大学経済学部7号館  
議題:未来都市(COCN 課題)の議論、他
- 第6回 3月15日(木)15-17時 日本大学経済学部3号館  
議題:横幹技術フォーラムの検討、他

### 2. 横幹技術フォーラム

- ・第31回 企業における事業計画(BCP)の必要性  
日時:2011年9月27日(火) 13:00-16:30  
場所:文京シビックセンター 26階 スカイホール  
司会:中野一夫(構造計画研究所)、開会挨拶:桑原 洋、閉会挨拶:出口光一郎  
講演 1 事業計画(BCP)の概要と今回の震災を踏まえた最新動向 丸谷浩明(建設経済研究所)  
講演 2 医療機関における業務継続に関する支援技術 天野明夫(大成建設)  
講演 3 官民連携による地域型 BCP 推進の重要性 渡辺研司(名古屋工業大学)  
総合討論
- ・第32回 情報共有による社会インフラの強靱化～システム技術の新たな挑戦課題～  
日時:2011年12月9日(金) 13:30-16:40  
場所:文京シビックセンター 26階 スカイホール  
司会:船橋誠壽、開会挨拶:桑原 洋、閉会挨拶:出口光一郎  
講演 1 強靱な社会インフラを実現するための情報マネジメントの考え方 目黒公郎(東京大学)  
講演 2 レジリエンス工学:リスクマネジメントのシステム論的展開 古田一雄(東京大学)  
総合討論
- ・第33回 強いぞ!日本～社会情報学の視点から東日本大震災からの復旧・復興を考える～  
日時:2012年1月31日(火) 13:00～16:50  
場所:文京シビックセンター 26階 スカイホール  
司会:櫻井 成一郎(明治学院大学)、開会挨拶:桑原 洋、閉会挨拶:出口光一郎  
講演 1 東日本大震災からの復旧・復興における法的諸問題 戒 正春(明治学院大学)  
講演 2 東日本大震災におけるボランティア実践 柴田 邦臣(大妻女子大)  
講演 3 日本の災害復旧・復興における強さと課題 遠藤 薫(学習院大学)  
総合討論

### 3. 横幹技術協議会との連携

横幹技術協議会と協力して、産学連携で我が国社会の課題を議論する場を検討することとなり、準備会合を行った。その中で同協議会を通じて COCN(産業競争力懇談会)との連携事業を検討することになり、準備の議論を行った。

### (B)2012 年度の事業計画

引き続き、知の統合による産学連携の実現を目指し、具体的なトピックとその実装方法について議論を行う。これを行う場として、横幹技術協議会との連携による横幹フォーラムを企画・実行する。さらに、同協議会を通じた COCN との共同事業について、特にシステム論に基づく社会問題解決、さまざまな技術の社会実装に関する議論を重ねていく予定である。

## 3-2-5 広報・出版委員会

### (A) 2011 年度の事業報告

委員長(理事)	木野 泰伸	(筑波大学、プロジェクトマネジメント学会)
副委員長(理事)	田中 秀幸	(東京大学、日本社会情報学会)
委員(理事)	玉置 久	(神戸大学、システム制御情報学会)
委員(理事)	船橋 誠壽	(横幹連合、計測自動制御学会)
委員	遠藤 薫	(学習院大学、日本社会情報学会)
委員	河村 隆	(信州大学、日本ロボット学会)
委員	小山 慎哉	(函館工業高等専門学校、日本バーチャルリアリティ学会)
委員	高橋 正人	((独)情報通信研究機構、計測自動制御学会)
委員	武田 博直	(株セガ、日本バーチャルリアリティ学会)
委員	中田 亨	((独)産業技術総合研究所、日本ロボット学会)
委員	西村 千秋	(東邦大学、日本バイオフィードバック学会)

広報・出版委員会では、横幹連合の知名度を高めるための活動を実施してきた。国内向けの活動として、本年度も定期的なニュースレターの発行を行った。さらに海外への知名度広めるべく英文ホームページを作成し、オープンした。また、横幹連合パンフレットの内容を最新版にすべく、作業を行っている。

#### 1. ニュースレターの発行

広報・出版委員会では、年に4回、定期的にホームページにて、ニュースレターを発行している。コンテンツは、巻頭メッセージ、活動紹介、参加学会の横顔、イベント紹介であり、毎号、内容の濃い話題を他分野の人にも分かりやすく紹介している。

#### 2. 英文ホームページの作成

和文によるホームページとは別に英文によるホームページを作成し、提供を開始した。

#### 3. パンフレットの更新

横幹連合では、現在まで、多くの活動がなされており成果を出している。パンフレットは、その活動を紹介する重要なツールであるが、継続的な内容の更新が不可欠である。広報・出版委員会では、新しいパンフレットの案を作成した。

### (B) 2012 年度の事業計画

横幹連合では、多くの活動を行っている。それを適切なタイミングで、関係者をはじめ社会に提供することが重要である。広報・出版委員会では、ホームページ、パンフレット、書籍を通じて、その活動を行うことを役割としている。新年度も引き続き、現在までの活動を継続し、ニュースレターの発行、和文、英文によるホームページの充実、パンフレットの更新を行っていく予定である。さらに、横断的に研究をすることの意義が分かる書籍発刊の検討も進めていきたい。

#### 1. 広報活動の実施

##### (1) ニュースレターの発行

(2)和文・英文ホームページの更新と充実

2. パンフレット等による広報の推進

新しい活動内容を加えた、新しいパンフレットを作成し、広報活動に活用する。

3. 書籍の検討

横断的な研究を分かりやすく解説する書籍の執筆を検討する。

### 3-2-6 会誌編集委員会

(A) 2011 年度の事業報告

委員長(理事)	税所 哲郎	(群馬大学、経営情報学会)
副委員長(理事)	青木 和夫	(日本大学、日本人間工学会)
委員(理事)	池上 敦子	(成蹊大学、日本オペレーションズ・リサーチ学会)
委員(理事)	玉置 久	(神戸大学、システム制御情報学会)
委員(理事)	松岡 由幸	(慶應大学、日本デザイン学会)
委員	大野 富彦	(新潟国際情報大学、経営情報学会)
委員	加藤 象二郎	(愛知みずほ大学、経営情報学会)
委員	金子 勝一	(山梨学院大学、日本経営システム学会)
委員	榎木 哲夫	(京都大学、ヒューマンインタフェース学会)
委員	庄司 裕子	(中央大学、日本感性工学会)
委員	椿 広計	(統計数理研究所、応用統計学会)
委員	長嶋 雲兵	(産業技術総合研究所)
委員	奈良 高明	(電気通信大学、日本応用数理学会/計測自動制御学会)
委員	福田 隆文	(長岡科学技術大学、日本信頼性学会)
委員	藤井 享	(㈱日立製作所、日本情報経営学会)
委員	三宅 美博	(東京工業大学、計測自動制御学会)
委員	山田 雄二	(筑波大学)

会誌ホームページの更新、会誌の Web 公開等の事業を引き続き行うとともに、横幹連合の活動の記録、及び会員学会の分野における横幹的事例の紹介として位置づけ、会誌の発行を行った。また、新たに会誌の著作権規程および投稿規程の作成を行うとともに、理事会に審議事項として提案・承認を受け、これらの新規程による運用を行った。

1. 会誌のホームページの更新

会誌のホームページを更新した。URL は、以下の通りである。

<http://www.trafst.jp/journal/index.html>

2. 会誌の全文 Web 公開

会誌は、第4巻第2号まで Web 上にて公開している。

3. 会誌第5巻第1号の発行(2011年4月発行)

巻頭言	際(さわ)を超えて繋ぐ	安岡 善文
解説:ミニ特集	「人間工学分野における横幹的取り組み」	
	人間工学と横断型基幹科学技術	青木 和夫
	鉄道分野における人間工学研究と横幹的アプローチ	鈴木 浩明
	航空システムにおける人間工学の役割 —パイロットと航空交通管制官とをつなぐインタフェースについて—	垣本 由紀子
	人間中心設計プロセスのヒューマンインタフェース設計開発への適用	福住 伸一
	アクセシブルデザインと国際標準化	佐川 賢 他



論説	システム科学技術とイノベーション	木村 英紀
解説	ポスト・ノーマルサイエンスとグローバル感度解析	香田 正人
トピック	第3回横幹連合総合シンポジウム開催報告	田村 義保
会員学会紹介	ヒューマンインタフェース学会の活動	土井 美和子
編集後記		青木 和夫
4. 会誌第5巻第2号の発行(2011年10月発行)		
巻頭言	横幹理念の実証のとき—3.11を経験して—	出口 光一郎
解説:ミニ特集	「信頼性工学における横幹的取り組み」	
	本質安全と確率論的安全評価について	中村 英夫 他
	数と時間への挑戦	松岡 敏成
	機能安全から見た横幹的係わりと意義	川島 興
	工学的規範としての Life Cycle Costing (Lcc) 手法について	門奈 哲也 他
原著論文	次世代型原価情報システムの構想— PSLX 準拠 OOCM の実装可能性に注目して	岡田 幸彦 他
会員学会紹介	一般社団法人経営情報学会について	平野 雅章
	一般社団法人日本ロボット学会	細田 祐司
トピック	横幹連合緊急シンポジウム「強靱な社会インフラの再構築にむけて科学技術は何をなすべきか」	出口 光一郎
	(4月25日, 東京大学山上会館)と理事会声明(5月2日)	
編集後記		玉置 久

## (B)2012年度の事業計画

引き続き会誌の定期発行を行う。

## 1. 会誌第6巻第1号の発行 (2012年4月発行)

巻頭言	データ中心科学と統計思考力	田村 義保
解説:ミニ特集	横断型取り組みとしての「タイムアクシス・デザイン」	
	持続的発展に向けた価値の創造 —時間軸をデザインする時代—	青木 弘行
	タイムアクシス・デザインの概念	松岡 由幸
	物語とゲームによる経験の時間軸デザイン	小林 昭世
	タイムアクシス・デザインの具現化に向けた価値成長デザインモデルの提案	佐藤 浩一郎
	次世代モビリティにおける価値成長デザイン	松岡 由幸
	タイムアクシス・デザイン理論を応用したバイオインスパイアード・ビークル	古郡 了 他
		氏家 良樹 他
トピック	第4回横幹連合コンファレンス開催報告	小坂 満隆
会員学会紹介	スケジューリング学会	八巻 直一
	日本経営システム学会	板倉 宏昭
編集後記		松岡 由幸

## 2. 会誌第6巻第2号の発行 (2012年10月発行)

内容準備中。

### 3-3 調査研究会の報告及び計画

#### 3-3-1 人工社会(終了/新規予定)

(A) 2011年度の事業報告

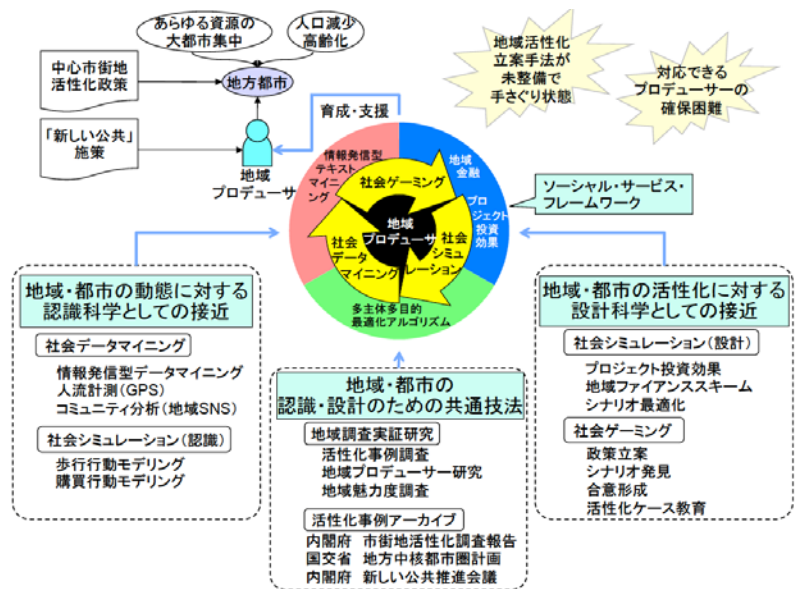
設置期間	2009年9月～2011年8月	
幹事学会	計測自動制御学会	
主査	倉橋 節也	(筑波大学、計測自動制御学会)
副主査	舩橋 誠壽	(日立製作所、計測自動制御学会/システム制御情報学会)
幹事	高橋 大志	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
委員	高橋 真吾	(早稲田大学、経営情報学会)
	寺野 隆雄	(東京工業大学、日本シミュレーション&ゲーミング学会)
	鳥山 正博	(野村総合研究所、経営情報学会)
	小野 功	(東京工業大学、計測自動制御学会)
	山下 泰央	(中央三井アセット信託銀行、経営情報学会)
	木村 英紀	(理化学研究所、計測自動制御学会)

本調査研究会の目的は、社会を構成するミクロな要素としての人間・企業・組織と、社会のマクロな構造を、マルチエージェント技術を用いて人工社会としてモデル化することで、実社会に存在する複雑な問題の解決を目指したフレームワーク構築を行うことにある。2011年度は、横幹コンファレンスでのオーガナイズドセッション開催と、科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(JST/RISTEX)による、問題解決型サービス科学研究開発プログラムの調査研究の成果に基づいて、2011年度の公募活動を主に実施したが、こちらの結果は不採択となった。

#### 1. 人工社会研究をベースとしたサービスサイエンス調査研究

調査会主要メンバーが他の研究者と連携し、浜田市、高松市、高知市を実施場所とする「ソーシャル・サービス・フレームワークに基づく地域・都市活性化のためのサービス科学研究」の申請を行った。

提案メンバーとして、寺野(東工大)、舩橋(横幹)、兼田(名工大)、吉田(筑波大)、板倉(香川大)、小野(東工大)、高橋(慶応大)、山下(中央三井)、倉橋(筑波大)、津田(筑波大)、望月(大阪教育大)、高橋(群馬大)、石橋(名古屋産業大)、倉増(香川大)等が参加し、他に、島根県浜田市、香川県高松市、高知県高知市の各現地協力者との連携で提案を行った。しかし、残念ながら、採択にはならなかった。理由は、サービス研究として大事なテーマではあるが、内容が多岐にわたっており、具体的に解明する対象、実現性、成果の横展開が必ずしも明確ではない、とのことであった。内容を吟味し、今後の活動を続けることで、活動を総括した。



#### 2. 人工社会調査研究

以下の講演会を実施した。

- 多重リスクコミュニケーターと意思決定支援、東京電機大学 佐々木良一先生(2011年8月31日)
- また、第4回横幹コンファレンスで、オーガナイズドセッション「人工社会が示す社会モデリングの科学」を開催した。

- ・製品普及と消費者間ネットワーク構造の関係, 斎藤宗香、倉橋節也 (筑波大学)
- ・エントリー記録から分析する新卒者就職市場, 森敬子、倉橋節也 (筑波大学)
- ・エージェントベースモデルによる金融市場分析: 投資制約下におけるパッシブ運用の有効性, 高橋大志 (慶応大学)
- ・サービス業組織における知識探索支援システムの効果分析, 青島親年、高橋真吾 (早稲田大学)
- ・ビジネスゲームの参加者行動分析, 越山修、寺野孝雄 (東京工業大学)
- ・組織逸脱と改善の分岐条件とハーネシング, 小林 知巳、寺野孝雄 (東京工業大学)

(B) 2012 年度の事業計画

2012 年度に新たな活動を開始する方向で、検討中である。

### 3-3-2 経営高度化に関わる知の統合 (終了/新規予定)

(A) 旧年度の事業報告

設置期間	2010 年 1 月～2011 年 12 月	
幹事学会	日本経営工学会	
主査	松井 正之	(電気通信大学・日本経営工学会)
副主査	椿 広計	(統計数理研究所・応用統計学会)
幹事	伊呂原 隆	(上智大学・日本経営工学会)
委員	大場 允晶	(日本大学・日本経営工学会)
委員	鈴木 久敏	(筑波大学・日本 OR 学会)
委員	白田 佳子	(筑波大学・日本学術会議)
委員	中岡 英隆	(首都大学東京・リアルオプション学会)
委員	角埜 恭央	(東京工科大学・経営情報学会)
委員	藤川 裕晃	(東京理科大学・日本経営工学会)
委員	伊藤 和憲	(専修大学・管理会計学会)
委員	中邨 芳樹	(日本大学・経営情報学会)
委員	佐藤 忠彦	(筑波大学・マーケティングサイエンス学会)
委員	中島 健一	(大阪工業大学・日本経営工学会)
委員	岡田 幸彦	(筑波大学・管理会計学会)

1. 研究の推進体制

次の二つのグループに分かれて研究を推進した。

- シナリオ経営に関する研究グループ
- リアルタイム経営に関する研究グループ

2. 研究成果

昨年の活動としては以下の 2 点である。以下 2 点を含む、当調査研究会としての研究成果は、最終成果報告書(全 64 ページ)の形で 2011 年末に報告済みである。

- ◆横幹技術フォーラム(日本教育会館, 2011 年 3 月 22 日)
  - ・シナリオ経営研究計画の概要, 鈴木久敏(筑波大学), 椿広計(統計数理研究所)
  - ・未来の経営を体験するためのゲーミング・シミュレータ構想, 白井 宏明(横浜国立大学)
  - ・リアルタイム経営と流動面管理法開発, 松井正之 (電気通信大学)
- ◆横幹コンファレンス(石川県能美市, 2011 年 11 月 28-29 日)
  - ・システム経営とシナリオ経営, 椿広計(統計数理研究所)
  - ・バランススコアカードの What, Why, How, 伊藤和憲(専修大学)
  - ・シナリオ経営とビジネスゲーム, 鈴木久敏(筑波大学)
  - ・グローバル事業の戦略策定における諸問題, 椿 茂実 (株式会社クエスト) ※

- ・ペア戦略マップにおける経済性と信頼性の相関パターンの考察, 高橋 隼人(電気通信大学) ※
  - ・見込品の生産座席システムに関する研究, 中邨良樹(日本大学) ※
  - ・需給管理システムに関する研究, 中島健一(神奈川大学)
  - ・グローバル時代のスマート意思決定支援システム, 外山味之(アヴィックス) ※
- ※連名者の記載を省略する。

#### (B) 2012 年度の事業計画

新たな体制で、この分野の調査研究会の新設が予定されている。

### 3-3-3 システム工学とナレッジマネジメントの融合(終了)

#### (A) 2011 年度の事業報告

設置期間	2010 年 4 月～2012 年 3 月	
幹事学会	計測自動制御学会	
主査	中森 義輝	(北陸先端科学技術大学院大学、システム制御情報学会)
副主査	辻 洋	(大阪府立大学、システム制御情報学会)
幹事	河野 克己	((株)日立製作所、計測自動制御学会)
委員	小坂 満隆	(北陸先端科学技術大学院大学、計測自動制御学会)(前幹事)
	松尾 博文	(神戸大学、日本 OR 学会)
	橋本 忠夫	(多摩大学大学院)
	船橋 誠壽	(横断型基幹科学技術研究団体連合、計測自動制御学会)
	西岡 由紀子	((株)アクトコンサルティング)

目的達成のための問題構造化に優れているシステム工学的なアプローチと、人間の創造活動を活性化する知識マネジメント的なアプローチを融合し、実社会に存在する複雑な問題の解決を目指した技術フレームワーク構築を目指し活動を進めている。企業経営や環境エネルギー、サービス事業などを対象領域にした、システム工学の新たな応用研究の調査と検討を行った。本活動の成果は、2011 年の横幹連合コンファレンスにおける企画セッションを立案して発表した。

#### 1. 研究事例の調査

産学より最近の研究事例を調査した。

#### 2. 意見交換会の実施

①意見交換会を 2010 年 10 月 8 日ならびに 2011 年 3 月 24 日の 2 回実施した。各回ともに、大学ならびに企業より 12～13 件の研究発表があった。

②経営やサービスの諸問題を中心に、最近の取組み報告があった。特に、実学研究者育成のための大学での教育のあり方、産学連携での人材育成などについて問題提起があり、継続検討することとした。

③研究会にて報告された多数の研究の取組みを、第 4 回横幹連合コンファレンスで発表することとした。

#### 3. 横幹コンファレンス企画セッションの実施

本研究会として、3つのセッションを企画した。上記 2. の意見交換会で報告あった方々から、計 12 件の講演をいただいた。

#### 4. 今後の予定

これまでの活動総括を行い、本年度にて活動を終了する。

### 3-3-4 横断型人材育成推進(終了/新規予定)

#### (A) 2011 年度の事業報告

設置期間	2010 年 9 月～2012 年 3 月
------	-----------------------

幹事学会	計測自動制御学会	
主査	本多 敏	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
副主査	長田 洋	(東京工業大学、品質管理学会)
幹事	小坂 満隆	(北陸科学技術先端大学院大学、システム情報制御学会)
委員	鈴木 久敏	(筑波大学、日本 OR 学会)
	遠藤 薫	(学習院大学、日本社会情報学会)
	旭岡 勝義	(社会インフラ研究センター、研究・技術計画学会)
	川田 誠一	(産業技術大学院大学、計測自動制御学会)
	古田 一雄	(東京大学、計測自動制御学会)
	藤原 靖彦	(元日産自動車、自動車技術会)
	高津 春雄	(横河電機、計測自動制御学会)
	坂井 佐千穂	(元セイコーエプソン、電子情報通信学会)
	星 千枝	(教育テスト研究センター)
	佐野 昭	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)

本調査研究会では、前身の研究会で実施した、横断型科学技術者育成のための育成体制の確立、文理融合を促進するための方法や教育制度の変革、横断型科学技術者の社会における評価の仕組み、具体的な人材育成プログラムの提案、横断型・融合型人材育成のロードマップ作成などを目標とした調査研究を継続するとともに、横断型人材育成を推進するための提言の実施に向けての活動を行う。

#### 1. 人材育成プログラムの調査研究

第3回研究会(2011年5月10日) GE Energy 鈴木浩氏 講演

第4回研究会(2011年6月10日) 椿先生講演: ABEST2 での国際調査について

第5回研究会(2011年7月15日) 永井先生講演, ベントン先生講演

Meta-cognitive Approach for Learning Global Leadership  
Competency International Project

第6回研究会(2011年10月3日) パナソニック三輪氏講演

第7回研究会(2011年12月28日) リクルートワークス研究所白石氏講演

第8回研究会(2012年2月24日) 西村先生講演: Bowland Maths の概要

#### 2. 第4回横幹連合コンファレンスOSの実施

横幹人材養成プログラム卒業生からの話題提供として以下のOSを企画実施した。オーガナイザ: 本多 敏(慶應義塾大学)。

- ・卒業生から見たシステム創成学科の教育について、清水達哉(鉄道情報システム株式会社)
- ・慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科における次世代リーダ育成プログラム—文理・年齢・国籍の枠を超えたグローバル人材教育—、野中朋美(慶應義塾大学)
- ・産業技術大学院大学における横断型人材育成とキャリアアップ、\*三好きよみ、川田誠一(産業技術大学院大学)
- ・産学連携活動における横断型科学技術としての知識科学の有効性、園城倫子(キャンパスクリエート)

#### 3. 報告書としての書籍発行の検討

第8回研究会(2012年2月24日(金))にて今期の委員会の活動報告書にかわるものとして、書籍を出版するための具体案を検討した。また今期で終了するが、次年度以降も継続することを確認した。

#### (B) 2012年度の事業計画

継続申請予定。

## 4. 第4号議案 学会賞の創設

前会長木村英紀氏から、横幹科学技術振興のための学会賞基金の寄付申出をいただいた。以下に定めた規程、および、このために今後整備する会計制度に沿って運営したい。

### 横幹賞運用規定

2012年2月27日理事会制定

#### 1. 趣旨

横断型基幹科学技術に関するすぐれた研究、実践などの活動ならびに横幹連合への貢献を表彰することにより、一層の活性化を奨励する。

#### 2. 種類

- (1) 論文・著述・実施賞
- (2) 横幹コンファレンス/シンポジウム賞
- (3) 功績賞
- (4) 木村賞

#### 3. 審査方法

4賞とも、以下の構成員からなる審査委員会にて候補者を理事会に推薦し、理事会にて決定する。

委員長： 副会長1名

幹事： 総務委員会委員長

委員： シンポジウム/コンファレンスプログラム委員長

編集委員会委員長

委員長・幹事が指名する理事若干名

- (1) 論文・著述・実施賞： 会員学会正会員からの推薦により(含む自薦)、過去2年間の「横幹」掲載論文、著作、プロジェクト活動などの様々な横幹的成果のうちから、若干名の個人または団体を表彰する。表彰状・楯と副賞(賞金2万円)を授与する。
- (2) 横幹コンファレンス/シンポジウム賞： オーガナイザ、座長、会員学会正会員からの推薦(含む自薦)により、優秀な講演および将来が期待されるもの5件を上限として表彰する。表彰状・楯と副賞(賞金2万円)を授与する。
- (3) 功績賞： 会員学会正会員からの推薦により、横幹連合の活動に継続的に多大な貢献をした個人に対し年間1件を上限として表彰する。表彰状・楯と副賞(賞金2万円)を授与する。
- (4) 木村賞： 上記3賞の授賞のうち1件を表彰する。表彰状・楯と副賞(賞金5万円)を授与する。

#### 4. 表彰

会長が総会で表彰する。副賞は原則として、木村元会長からの寄付金「横幹賞基金(仮称)」の範囲内とする。

附則 第1回は2012年横幹総合シンポジウム席上にて表彰する。

以上

## 5. 第5号議案：2011年度収支決算報告および2012年度予算案

2011年度 横幹連合 収支計算書					
2011.4.1～2012.3.31					
収入の部					(単位：円)
科 目	予 算 額	実績額	差異	消化率	備 考
1. 会費収入	2,220,000	2,200,000	20,000	99.1%	
2. 民間補助金	500,000	0	500,000	0.0%	
3. 繰越金	4,196,047	4,196,047	0	100.0%	
4. 事業収入	9,520,000	2,400,500	7,119,500	25.2%	
受託事業	6,500,000	0	6,500,000	0.0%	
プロジェクト	1,000,000	0	1,000,000	0.0%	
コンファレンス	1,620,000	2,097,000	▲ 477,000	129.4%	
会誌	400,000	303,500	96,500	75.9%	
その他	0	0	0		
5. 繰入金収入	0	0	0		
6. 雑収入	100,000	827	99,173	0.8%	
7. 引当金の繰り入れ	0	0	0		
収入合計 (A)	16,536,047	8,797,374	7,738,673	53.2%	
支出の部					
科 目	予 算 額	実績額	差異	消化率	備 考
1. 管理費					
1.1 会議費	200,000	89,664	110,336	44.8%	
1.2 印刷製本費	50,000	64,352	▲ 14,352	128.7%	
1.3 通信運搬費	150,000	169,350	▲ 19,350	112.9%	
1.4 旅費交通費	250,000	210,040	39,960	84.0%	
1.5 人件費	2,650,000	2,858,007	▲ 208,007	107.8%	
1.6 消耗品・備品費	25,000	19,568	5,432	78.3%	
1.7 租税公課	5,000	700	4,300	14.0%	
1.8 雑費	10,000	17,480	▲ 7,480	174.8%	
小計	3,340,000	3,429,161	▲ 89,161	102.7%	
2. 事業費					
2.1 コンファレンス・シンポジウム	1,620,000	1,865,963	▲ 245,963	115.2%	
2.2 技術シンポジウム	0	0	0		
2.3 横幹技術フォーラム	0	0	0		
2.4 委員会 各5万円	150,000	33,450	116,550	22.3%	
2.5 調査研究会 各7・5万円	300,000	97,747	202,253	32.6%	
2.6 受託事業	5,000,000	0	5,000,000	0.0%	
2.7 課題解決プロジェクト	1,000,000	0	1,000,000	0.0%	
2.8 プロジェクト請負活動	700,000	0	700,000	0.0%	
2.9 広報費	75,000	95,520	▲ 20,520	127.4%	
2.10 会誌「横幹」	1,150,000	1,028,365	121,635	89.4%	
2.11 その他	0	47,550	▲ 47,550		
小計	9,995,000	3,168,595	6,826,405		
3. 予備費					
3.1 予備費	3,201,047	0	3,201,047	0.0%	
小計	3,201,047	0	3,201,047	0.0%	
支出合計 (B)	16,536,047	6,597,756	9,938,291	39.9%	
収支差額 (A - B)	0	2,199,618			

2011年度 横幹連合 貸借対照表			
2012年3月31日現在			
(単位:円)			
科 目		金 額	
<b>I. 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金	22,887		
預 金	2,414,430		
未 収 金	0		
立 替 金	48,726		
仮 払 金	0		
流動資産合計		2,486,043	
2. 固定資産			
什器備品	0		
基 金	1,000,000		
固定資産合計		1,000,000	
資産合計			3,486,043
<b>II. 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未 払 金	4,360		
預 り 金	230,065		
借 入 金	0		
前 受 金	52,000		
内部仮受け金			
引 当 金	0		
流動負債合計		286,425	
2. 固定負債		0	
負債合計			286,425
<b>III. 正味財産の部</b>			
正味財産			3,199,618
負債および正味財産合計			3,486,043



## 2011 年度横幹連合会計 利益処分案

(単位:円)

2011 年度収支差額	¥2,199,618
利益処分案	
2012 年度会計への繰越	¥2,199,618

以上

## 監 査 報 告 書

特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合の 2011 年 4 月 1 日から  
2012 年 3 月 31 日にいたる会計年度の収支明細と現預金残高について、書類に基  
づき会計監査を行った結果、適正に会計処理されており、別紙収支計算書および現  
預金残高は事実と相違ないことを確認しました。

また、同年度の理事会に出席して業務監査を行い、理事会の議事運営が規約に則り  
適正に行われていたことを確認しました。

横断型基幹科学技術研究団体連合の監査結果を以上のとおり、監事として署名・押  
印して報告します。

2012 年 4 月 25 日

特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合

監事

西村千秋 

(西村 千秋)

監事

木村英紀 

(木村 英紀)

## 2012年度横幹連合予算(案)

(単位：円)

科 目	予算額	前年度実績	対前年度実績差異	備 考
収入の部				
1. 会費収入	2,200,000	2,200,000	0	
2. 民間補助金			0	
3. 繰越金	2,199,618	4,196,047	▲ 1,996,429	
4. 事業収入	7,800,000	2,400,500	5,399,500	
受託事業	6,500,000	0	6,500,000	
プロジェクト		0	0	
コンファレンス・シンポジウム	1,000,000	2,097,000	▲ 1,097,000	協議会協賛含む
会誌	300,000	303,500	▲ 3,500	協議会広告含む
その他	0	0	0	
5. 繰入収入	0		0	
6. 雑収入	80,000	827	79,173	総会懇親会費等
7. 引当金繰り入れ	0	0	0	
収入合計 (A)	12,279,618	8,797,374	3,482,244	
支出の部				
1. 管理費				
1. 1 会議費	200,000	89,664	110,336	総会会場費等
1. 2 印刷製本費	50,000	64,352	▲ 14,352	
1. 3 通信運搬費	200,000	169,350	30,650	
1. 4 旅費交通費	200,000	210,040	▲ 10,040	
1. 5 人件費	2,600,000	2,858,007	▲ 258,007	
1. 6 消耗品費・備品費	20,000	19,568	432	
1. 7 租税公課	5,000	700	4,300	印紙代等
1. 8 雑費	10,000	17,480	▲ 7,480	
小計 (k)	3,285,000	3,429,161	▲ 144,161	
2. 事業費				
2. 1 コンファレンス・シンポジウム	700,000	1,865,963	▲ 1,165,963	
2. 2 技術シンポジウム	0	0	0	
2. 3 横幹技術フォーラム	0	0	0	
2. 4 委員会 各2万円	60,000	33,450	26,550	企画・産学・学術
2. 5 調査研究	225,000	97,747	127,253	75,000/研究会
2. 6 受託事業	5,000,000	0	5,000,000	
2. 7 課題解決プロジェクト		0	0	
2. 8 プロジェクト請負活動		0	0	
2. 9 広報費	75,000	95,520	▲ 20,520	
2. 10 会誌「横幹」	1,100,000	1,028,365	71,635	
2. 11 その他	0	47,550	▲ 47,550	
小計 (j)	7,160,000	3,168,595	3,991,405	
3. 予備費			0	
3. 1 予備費	1,834,618	0	1,834,618	
小計 (y)	1,834,618	0	1,834,618	
支出合計 (B = k + j + y)	12,279,618	6,597,756	5,681,862	
収支差額 (A - B)	0	2,199,618	▲ 2,199,618	